

タイトル『補綴物について考えるーリカバリー症例からの学ぶことー』

日々臨床技工に携わっていると自分が製作した補綴物の思わぬ惨状をに愕然とさせられることがある。口腔内において補綴物は、私達歯科技工士が模型上で想定する以上に過酷な状況に置かれているようである。インプラントが絡んだ症例の場合は特に顕著である。

突きつけられたリカバリー症例から反省させられることは多く、学ぶべきことは大きい。

ロンジェビィティーを考えた時、技工士として補綴物の耐久性は重要な課題となる。補綴物の選択や構造設計は、補綴物の予後を左右する。

しかし補綴物が壊れたり摩耗することで生体を守るという側面もある。

リカバリー症例を通し、歯科技工士として補綴物の選択を含め日常臨床技工において私が心がけていることについて述べさせていただこうと思う。

土肥 学